

藤枝市制施行70周年・サッカーのまち100周年 記念事業

第20回『魂の俳人』

藤枝市村越化石俳句大会

入賞作品集

つなぐ藤色物語 未来へのキックオフ



藤枝市制施行70周年
サッカーのまち100周年



藤枝市村越化石

俳句大会について

平成十四年、藤枝市岡部町出身の村越化石氏の功績を顕彰して、藤枝市岡部町新舟に句碑を建立すると同時に創設されたものです。

大会の主旨は、村越化石氏の俳句の世界の理解、俳句に人生の豊かさを見出している方々に作品発表の機会を作ること、そして初心者をはじめ小中学生の皆さんが俳句に親しみ、楽しんでいただくことを目指しております。

”魂の俳人“

村越化石

村越化石氏は大正十一年藤枝市岡部町に生まれ、ハンセン病を発症し、十六歳のとき治療のため離郷。

その後、俳人大野林火氏に師事し、精進に精進を重ねて数々の立派な作品を生みだし、「魂の俳人」として数多くの賞を受賞しています。

昭和五十八年

第十七回蛇笏賞受賞

平成三年

紫綬褒章受章

平成二十六年三月八日

死去（九十一歳）

選者紹介

せき もり かつ お
関 森 勝 夫 氏

俳誌「蜻蛉」主宰

「大野林火」氏に師事（村越化石氏の同門）

静岡県立大学名誉教授

俳人協会顧問、俳人協会静岡

県支部顧問、国際俳句交流協

会評議員、日本文藝家協会

会員、日本詩歌文学館評議員



村越化石賞

一般の部

中学生の部

小学生の部

夏祭り屋台のトンネル光ってる

伊達 千温

西益津小学校・6年

〔講評〕

参道の両側に電灯をともした屋台が並んでいる。その様子を「屋台のトンネル」ととらえた表現がすぐれている。夏祭りにぎやかさ、作者の心の躍動感も受け止められる。

氷柱から滴る水の澄んだ音

増田 愛子

藤枝中学校・1年

〔講評〕

厳冬の早朝の一景。朝陽がさし、とけたつららの水の一音一音が高くひびく。その音に空気の冷めたさが強く感じられたのである。「澄んだ音」に凍てた朝の静寂さが表現された。

手の先に夜明けてゐる盆踊

後藤 むつ子

伊豆市

〔講評〕

山深い村での盆踊り。星空の下で夜を徹して続く。参加者全員は時間の経過など気にしない。踊りの最中、ふと所作の手先が明るくなっているのに気付き、夜明けを受け止めたのだ。一夜の充実した楽しさが受け止められる。

市長賞

一般の部

千葉 信子

千葉県千葉市

〔講評〕

「水団扇」は、水に耐えるように団扇の表面に艶うるし等を引いたもの。井戸水などをふりかけて煽ぐ。産地は奈良等。夕涼みの折、水団扇を使うと、冷たい水がばらばらと皮膚に当り、その冷たさが一瞬ながら心地良い。一と昔前の夏の生活をなつかしむ気持ちが出た。

なによりも水の切れ味水団扇

中学生の部

塚本 歩花

広幡中学校・3年

〔講評〕

修学旅行での所感。古都の名所の山々が新緑に輝いてまぶしい。初めて体験する名所への心弾みが「まぶしく揺れる」の表現に受け止められる。「嵐山」の地名が働き、句に動きが出る効果をもたらせた。

新緑がまぶしく揺れる嵐山

小学生の部

齊藤 咲来

高洲小学校・3年

〔講評〕

涼しい風が入り、風鈴の音がひびく座敷で一服の玉ろ茶をいただく。気持ちが落ち着く。改めて心地いい風鈴の音に耳を傾ける。外の暑さを忘れ、心穏やかにくつろぐ作者の姿が見える。

風りんの音聞きながら玉ろのむ

教育長賞

一般の部

鈴木 恵理

藤枝市善左衛門

〔講評〕

花火大会を家族で楽しんでいた時の一場面を捉えた。母と祖母の寄り添った背後に居た作者は、その穏やかな姿に引き付けられ心が和んだのである。一瞬の花火より美しいと眺めていたに違いない。

母と祖母寄り添う背中花火咲く

中学生の部

下田 さくら

瀬戸谷中学校・3年

〔講評〕

巣立ったばかりの燕の頼りない行動を見て、思はず声援を送ったのである。これからもいろいろな困苦を乗り越える勇気を持つと。作者の小動物への優しい情愛が表出している。

負けないで巣立ちのつばめに声掛ける

小学生の部

山崎 琉允

岡部小学校・3年

〔講評〕

野原でバツタに出会う。近付くと一瞬にして高く飛び上がった。その様子を見、作者も空を飛んで見たい、と思ったのである。青く広い空へのあこがれが表現された。

バツタ見てばくもとびたい青い空

藤枝市文化協会会長賞

一般の部

菊井 えん

藤枝市与左衛門

〔講評〕

「余り苗」は田植の時に余った苗のこと。田植の終わった田の隅にかたまわって植えられていることが多い。必要が失くなったものでも農家の人にとって捨てがたいものに違いない。「雨等し」は簡明な表現ではあるが作者の心情が強く表出した。この世に多く存在する格差差別について考えさせられる。

田の隅の余り苗にも雨等し

中学生の部

良知 花音

西益津中学校・3年

〔講評〕

高原などで夏に入っても鳴いているうぐいすをよんだ句だと思われる。春と違って一匹で大きく鳴いていることが多い。その様子をさびしいので仲間が集まって欲しい、と呼んでいると感じ取ったのである。感情移入の句。作者も友達を作りたいと思っていたのであろう。

うぐいすがひとりさびしく仲間呼ぶ

小学生の部

増井 夏菜

高洲小学校・4年

〔講評〕

「手からはみ出す」の表現によって、大きく見事な桃であることがわかる。味も甘くおいしかったに違いない。

かぶりつく手からはみだすもも一つ

市制施行 70 周年記念賞

中学生の部

蝉時雨時に沈黙風の音	藤枝中学校・1年	岩瀬 恭二
川の中光をのせる山女の背	青島中学校・3年	玉木 文也
日本勝て送る声援セミに勝つ	青島北中学校・1年	青木 花綸

小学生の部

思い出はひやけあとでもよみがえる	青島小学校・5年	青嶋 奏汰
しゃくとり虫おりののこわくてまよってる	青島東小学校・3年	吉本 知紗
むかえ火と同じ火でさくにわ花火	高洲小学校・4年	増田 蘭珠

入 選 作 品

一般の部

早送りのごとく蜥蜴の逃げ惑ふ
貧乏のはなし賑やか日向ぼこ
よく動く手足を褒めて踊りけり
立秋や吾にも小さき志
祭櫓朝一番の風に組む
新しい繋がりできる文化祭
小鳥来る牛首紬織る窓辺

愛媛県喜多郡内子町
藤枝市志太
浜松市中央区
藤枝市飯宿
藤枝市与左衛門
浜松市中央区
石川県白山市

毛利 喜子
高木 春夫
鈴木みちゑ
加用 富夫
堂本 房子
平野ローズ
瀬東千恵子

中学生の部

朝焼けの湯船からみる雪景色
夕焼けでそまる田んぼにただひとり
夏の風愛犬はしゃぐ軽井沢
風の声すき間に響く冬の部屋

藤枝中学校・2年
青島中学校・3年
葉梨中学校・2年
葉梨中学校・3年

寺岡 真弓
岩崎 大河
杉浦 紘希
牧野鼓次郎

小学生の部

たもよりもあつい夏からにげる虫
炎天下暑さ忘れるイルカシヨ
プール行こうぼくよりはしゃぐおじいちゃん
さつまいもばかっと中身月のよう
川浴いを一緒に風切る赤とんぼ

藤枝中央小学校・3年
西益津小学校・5年
葉梨小学校・3年
葉梨小学校・5年
高洲小学校・6年

山下 蒼馬
森田愛乃心
秋山 元輝
三好 希花
佐藤 建晴

歴代化石賞受賞作品

第5回			第4回			第3回			第2回			第1回			大会回
平成19			平成18			平成17			平成16			平成15			年度
一般	中学生	小学生	一般	中学生	小学生	一般	中学生	小学生	一般	中学生	小学生	一般	中学生	小学生	部門
大竜勢月を掠めて上がりけり	まっすぐな線路の先に夏の雲	あまいももさわってびっくり毛があるぞ	語り合ふことも供養や秋彼岸	ひまわりと生きていきたいまっすぐに	虫おくりあつい火のこがぼくにとぶ	はるばると来て望郷の碑に涼む	さわやかにひざっこぞうをすぎる風	水まいてできたにじ橋一人じめ	身奇麗を常のこころに秋立てり	大きな手小さな手をひく夏祭り	秋の空羊がさんぼしているよ	みどりの日村に自慢の榎大樹	青い海白い砂浜夏が来た	赤トンボ見に来てくれた運動会	作品
小野多生	和泉原あかり	池田直樹	横山茂子	山内晴香	朝比奈大輝	影島智子	岩瀬卓也	柴田美優	石井みよ子	村越亮太	強瀬紗希	新川晴美	松下和弘	森田彩加	氏名
焼津市	葉梨中3年	焼津西小3年	三重県四日市市	藤枝中3年	朝比奈第一小2年	富士川町	青島北中2年	藤枝小6年	焼津市	岡部中2年	埼玉県岡部小5年	静岡市	大洲中2年	埼玉県岡部小4年	学校名等

歴代化石賞受賞作品

第9回			第8回			第7回			第6回			大会回		
平成24			平成23			平成21			平成20			年度		
一般	中学生	小学校高学年	小学校低学年	一般	中学生	小学校高学年	小学校低学年	一般	中学生	小学生	一般	中学生	小学生	部門
茶の銘は「天下」なり風薫る	法隆寺緑の中に溶けにけり	炎天下みんなでとった優勝旗	太ようの中なかがかやくぎんやんま	浴衣着て川の夕暮れ見てをりぬ	電線に音符のような稲すずめ	グラウンドにあせがちってるあとがある	富士登山夜空がきれいまた来るよ	洗い晒し身に爽やかや歎担ぐ	雲海を泳ぎきつたり夢の中	かぶとむし木からおちてもまたのぼる	木苺を母が食べれば子も做ふ	勉強はちよっと休憩星月夜	エアコンがなくてもすずし祖母の家	作品
磯部和子	実石理子	横山翔	下田理音	田崎とし子	鈴木奈々恵	谷口泰亮	小林悠斗	天野公江	小花海月	前田ひなた	笠原沢江	遠藤菜摘	溝口真加	氏名
藤枝市泉町	和田中3年	青島北小5年	青島東小3年	沼津市	焼津中3年	大洲小5年	岡部小3年	富士市	西益津中3年	西益津小2年	牧之原市	西益津中	大井川西小	学校名等

村越化石俳句大会

歴代化石賞受賞作品

第13回				第12回				第11回				第10回				大会回
平成28				平成27				平成26				平成25				年度
一般	中学生	小学校高学年	小学校低学年	一般	中学生	小学校高学年	小学校低学年	一般	中学生	小学校高学年	小学校低学年	一般	中学生	小学校高学年	小学校低学年	部門
堪ふること今は淋しき千菜汁	タンポポは未知の世界に飛んでゆく	いそがしい母にあげたい夏休み	夏休み最後の一日短いな	茶を摘みつ子の宿題の九九を聞く	豊の秋祖父の笑顔は花のよう	夏休みたたくつそうなランドセル	夏空にイルカのジャンプ金メダル	心眼で詠みし句胸に一夜酒	若鮎やうろこ光らせ瀬を登る	妹の笑顔はまるでひまわりだ	すいかわりぼくがきめるぞどまんなか	芋の露馴染みばかりの診療所	ふりかえる阿弥陀も見入る蓮の花	夏の夜ねころんで見た流星群	たべたいなふじさんみたいたいなかきごおり	作品
中谷貞子	三ヶ尻新	漆畑美心	櫻井秀	菅原末野	濱田歩	永井茉桜	服部芽依	高橋和子	山下美德	藤本愛	板橋巧実	城所有子	秋山いぶ樹	永田藍	松浦鉄弥	氏名
北海道恵庭市	広幡中1年	小川小5年	青島小3年	榛原郡吉田町	東京都町田第一中2年	小川小4年	高洲小3年	静岡市葵区	藤枝明誠中2年	高洲南小4年	高洲小3年	藤枝市音羽町	焼津中3年	青島小5年	藤枝小3年	学校名等

村越化石俳句大会

歴代化石賞受賞作品

第19回			第18回			第17回			第16回			第15回			第14回			大会回
令和5			令和4			令和3			令和2			令和元			平成30			年度
一般	中学生	小学生	一般	小学生		一般	中学生	小学生	一般	中学生	小学生	一般	中学生	小学生	一般	中学生	小学生	部門
共白髪となりて花野の風をきく	せみしぐれ魂燃える部活動	海の家風鈴たちのオーケストラ	読初の「端坐」に父の朱線かな	おにやんまかわのまわりをぱとろーる		田を植えて高根の富士を拝しけり	川遊び岩から飛びこみ初挑戦	元気だよ声だけで会う夏休み	見えぬ眼に見ゆるものあり新茶汲む	セミたちに負けるなわたしのペーサーペン	笠地藏ひとみの中に舞う火花	端居して妻と余生のこと少し	初富士に負けじと波上げ駿河湾	あさがおにおみずあげるとにじがでた	雁渡るサイクリストは一列に	お日さまが会話している向日葵と	太陽の色ももったマクワウリ	作品
椋本信枝	足野ももこ	佐々木海琉	古賀勇理央	山下蒼馬		大石容一	金原聡佑	田端優菜	橋本世紀男	萩原 遙	杉山大喜	大石容一	笹野陽介	鈴木彩世	内野義悠	高野颯太	市川真綾	氏名
藤枝市水上	青島中学校2年	青島北小学校6年	愛知県尾張旭市	藤枝中央小1年		藤枝市築地	青島中1年	藤枝中央小4年	東京都江東区	西益津中2年	青島小4年	藤枝市築地	藤枝中2年	藤枝小1年	埼玉県所沢市	岡部中1年	高洲小6年	学校名等

心眼 魂の俳人 村越化石

除夜の湯に肌触れあへり生くるべし

昭和25年作

新年への希望。ハンセン病の特効薬プロミンの開発により、療友とともに奇跡的な薬効に浴して一年。生命感を初めて見だし、決意を詠んだ句。

闘うて鷹のゑぐりし深雪なり

昭和43年作

深雪に残った傷跡から、ひろがった鷹へのイメージ。俳句作りは気合い。気合いが奥にあるものを引き出す。この句は共鳴者が多く、私の代表作となった。

生きねばや鳥とて雪を払ひ立つ

昭和46年作

失明から立ち上がるも、私の日常はまだまだおぼつかなかった。

天が下雨垂れ石の涼しけれ

昭和51年作

林火先生に、この句は無欲の境地だといわれた。ぼっとんぼっとんという雨垂れの音、青苔のついた形のよい石を頭の中に浮かべた。

※掲載句の注釈は、村越化石句碑建立記念集「大龍勢」の自註句を参考にしました。



村越化石略年譜

大正11年	12月17日、志太郎朝比奈村(現・藤枝市岡部町)で生まれる
昭和13年	16歳でハンセン病発症、治療のため離郷。
16年	奈美と結婚、国立療養所栗生楽泉園に入園。
18年	本田一杉の指導を受ける。園の「栗の花句会」(後に高原俳句会)で、俳句精神を学ぶ。
23年	プロミンによるハンセン病の治療が日本で始まる。
24年	このころ化石さんもプロミンを注射。大野林火主宰の『濱』に境遇を隠したまま初投句。
25年	林火に境遇を打ち明けて、高原俳句会の指導を依頼する。
30年	片目の視力を失う。
45年	残る片目の視力も失う。
58年	第17回蛇笏賞受賞。
平成3年	紫綬褒章受章。
14年	村越化石句碑除幕式。60年ぶりに帰郷。
20年	第8回山本健吉賞受賞。
26年	3月8日 栗生楽泉園で逝去 91歳

〔投句数の推移〕

大会回	年度	投 句 数			
		小 学 生	中 学 生	一 般	合 計
第1回	平成15	1,417	704	671	2,792
第2回	平成16	673	802	553	2,028
第3回	平成17	932	858	360	2,150
第4回	平成18	851	1,041	426	2,318
第5回	平成19	1,105	891	434	2,430
第6回	平成20	1,180	1,199	380	2,759
第7回	平成21	1,913	964	402	3,279
第8回	平成23	1,118	505	442	2,065
第9回	平成24	966	598	418	1,982
第10回	平成25	1,048	781	453	2,282
第11回	平成26	1,155	768	506	2,429
第12回	平成27	1,154	744	418	2,316
第13回	平成28	1,339	787	418	2,544
第14回	平成30	726	638	354	1,718
第15回	令和1	884	1,542	308	2,734
第16回	令和2	1,005	749	308	2,062
第17回	令和3	1,361	1,405	212	2,978
第18回	令和4	1,433	1,597	404	3,434
第19回	令和5	1,733	1,785	415	3,933
第20回	令和6	1,446	1,868	374	3,688



〔石刻句〕

平成七年作

望郷の 目覚む 八十八夜かな

望郷の句は私に多い。故郷を離れてすでに久しく、
見えない眼の奥にいつも故郷がある。夏も近づく
八十八夜は新茶の初摘みの頃、村中が茶の香りに
つつまれるよき季節。

生氣溢るる八十八夜は望郷とともに私の好きな
言葉である。

村越化石

【俳句大会の経緯】

平成十五年(第一回) 「村越化石顕彰玉露の里俳句大会」開催

平成二十一年(第七回) 「藤枝市村越化石顕彰俳句大会」に名称変更

平成二十三年(第八回) 「藤枝市村越化石俳句大会」に名称変更
実行委員会による運営体制へ移行

平成三十年(第十四回) 選者に有馬朗人氏と関森勝夫氏を迎え、
新たな運営体制で再開、小学生・中学生の

部は市内在住・通学者を対象。

令和三年(第十七回) 選者に大串章氏を迎える。

藤枝市制施行70周年・サッカーのまち100周年 記念事業

第20回「魂の俳人」藤枝市村越化石俳句大会

入賞作品集

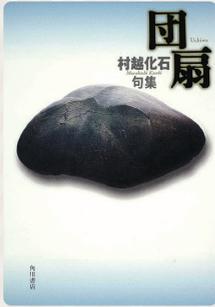
令和六年十二月八日 発行

編集・発行 藤枝市街道・文化課

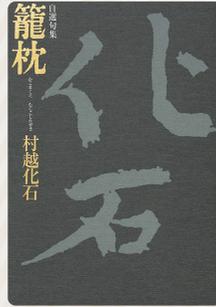
藤枝市岡出山一丁目十一番一号

電話〇五四一六四三三〇三六

印刷 中央印刷株式会社



〔第九句集〕平成22年



〔卒寿記念自選句集〕平成25年



〔処女句集〕昭和37年



〔第八句集〕平成19年



〔第二句集〕昭和49年



〔第七句集〕平成15年



〔第三句集〕昭和57年



〔第六句集〕平成9年



〔第五句集〕平成4年



〔第四句集〕昭和63年

村越化石氏の句集